

〈奉納踊り〉



藤枝市指定
無形民俗文化財

藤枝大祭りにおける鮑波神社大祭の奉納踊りは
駿州の旅日本遺産の構成文化財・藤枝市無形民俗文化財です。

日本一の長唄による地踊り

藤枝大祭り

ふじえだ
おおまつり

令和7年 10月

3(金) 4(土) 5(日)

初日は自区廻り

祭典本部前の地踊り披露



志太平洋最古の社

【特別協賛】



延喜式内

鮑波神社

【協力】

藤枝市観光協会

【主催】

藤枝大祭り実行委員会

【お問い合わせ】 藤枝大祭連合会事務局

E-mail fujiedataisai@gmail.com

藤枝大祭りについての詳しい情報は

藤枝大祭り

検索

<https://www.fujiedataisai.jp/>



藤枝大祭りは、江戸時代以来の伝統と歴史があります。

祭典の歴史

田中城内で屋台と踊りが披露されました

江戸時代、田中城の鬼門を守る青山八幡宮の大祭に、藤枝宿の屋台が神輿渡御の行列に付き従ったのが始まりです。明治四年(1871)の廃藩置県で田中藩が解体され、藤枝宿の総社飽波神社(延喜式内社)大祭にこの屋台の曳き回しが移行されました。

飽波神社大祭は、寅・巳・申・亥の年に施行されます。現在ではこの大祭を「藤枝大祭り」と呼んでいます。

明治時代までは、写真のような江戸でもっとも発展した「三層高欄型山車」と、唐破風屋根に踊り舞台を備える「踊り屋台」とが結合する独自の山車屋台でした。これが、文明開化の象徴でもある電線と電話線の敷設により、三層高欄部分がどうしても電線と電話線にかかってしまうため、やむなく踊り屋台(幕引き屋台)のみの形態に変わりました。当時中央の長唄界で活躍していた左車出身の六世芳村伊十郎(長唄家元)を迎え、大正五年(1916)に、現在のような長唄による地踊り披露という形態が整えられました。



六世 芳村伊十郎



明治35年(1902)白子区の屋台 浦島太郎のネリ物が見える(佐藤康司氏所蔵)

祭典の見どころ

日本一の長唄による地踊り

長唄は歌舞伎の演奏音楽ですが、勧進帳など劇に伴うものや越後獅子など舞踊に伴うもの、さらに吾妻八景など、舞台を離れての素唄ものなどがあります。藤枝大祭りでは、長唄・三味線・囃子方というフルメンバーによる演奏で、地踊り(手踊り)を披露します。そして、どの地区も必ず三曲は長唄による地踊りを披露できます。

これは、「長唄による地踊りの祭礼」の全国調査で、長唄・三味線・囃子方というフルメンバーでの地踊りの形態を持つ祭礼は、藤枝大祭りがその規模と質において日本一だということが判りました。この長唄で地踊りを披露する形態は、江戸でも盛んだったのですが、明治になって屋台や山車が半ば強制的に東



京都内から消え、神輿担ぎの祭礼形態へと変化し、自然消滅してしまいました。現在では東海道の旧宿場町、藤枝・島田・掛川にのみ、この長唄による手踊りという祭礼形態が継承されています。

屋台の曳き回し

太く長い梃子棒を屋台の前面に取り付けての操作方法は、東海道では藤枝大祭りが唯一です。通りから入った路地での屋台運行は、梃子棒の微妙な操作が見ものです。

また、屋台の回転は、本通りの交差点で行われますので、どうぞお見逃しなく。屋台の曳き回しにも、独自の操作方法が見られます。

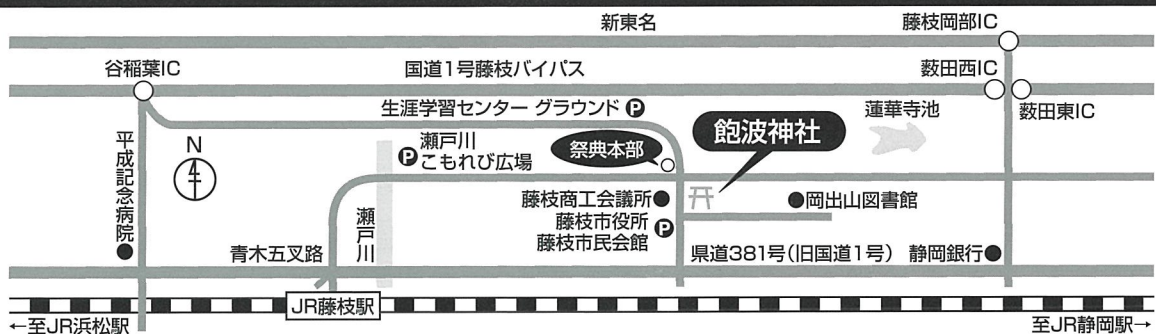


梃子棒



屋根方

会場のご案内



奉納踊り

場所●飽波神社

時間●10月3日(金)午後～
5日(日)午後



※時間等の詳細は「藤枝大祭りホームページ」をご覧ください。

本部前長唄地踊り・屋台廻し披露

場所●大祭本部観覧席前(千歳交差点)

時間●10月4日(土)午後1時30分～午後8時30分、
5日(日)午後3時～午後8時30分